

乳がん検診について

検診で異常がなくても、自己触診は定期的に行いましょう。

- ・今までなかったしこりや硬さがある
- ・赤褐色の分泌物がある

上記の場合には、検診ではなく医療機関を受診してください。

埼玉乳がん検診検討会



日本人女性の約 10 人に 1 人が乳がんになるといわれており、女性がかかるがんの中で一番多いのは乳がんです。乳がんによる死亡率を減らすためにはマンモグラフィによる乳がん検診が有効と考えられています。しかし、マンモグラフィで見つかりにくい乳がんもあること、ご自身の乳房の特徴を知ること大切です。

検診結果の読み方

※検診を受けた地域や施設によって記載方法が異なるため、あくまで一般的な内容についての説明です。

異常なし 良性

今回の検査では、悪性(がん)を疑う異常は認めませんでした。

しかし、しこりや乳頭分泌などの症状が出現した際は、必ず医療機関を受診してください。

要経過観察 要受診

今回の検査では、悪性(がん)を強く疑う異常は認められませんでした。

ただし、良性の可能性が高いものがみられました。今後の変化によっては悪性(がん)との区別が必要になる場合がありますので、6ヶ月後に医療機関を受診してください。

要精密検査 悪性を否定できず 悪性疑い

悪性(がん)の可能性のある異常が認められました。より正確に診断するため医療機関を受診してください。



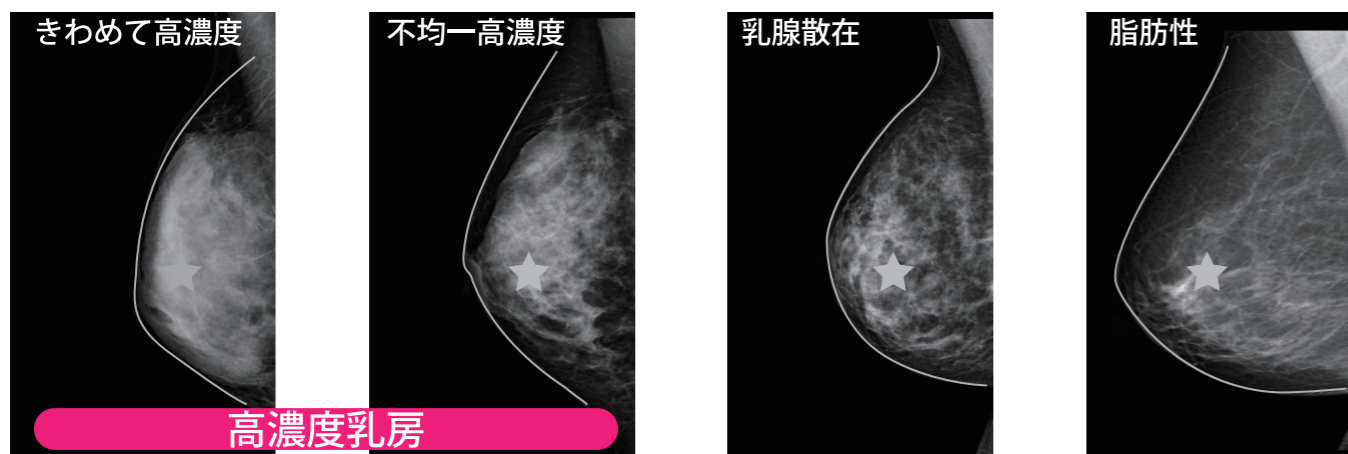
悪性

悪性(がん)を強く疑う異常が認められました。早めに医療機関を受診してください。

乳房の特徴について

乳房は乳腺と脂肪からできています。マンモグラフィ検査では、乳腺は白く、脂肪は黒くみえます。乳腺と脂肪の割合は人によって違ってきます。乳腺が多い「高濃度乳房」ではマンモグラフィの乳房は白が多くなるので、白くうつる「がん」は発見しにくくなります。

マンモグラフィ画像イメージ



高濃度乳房の判定は必ずしも正確ではありません。また高濃度乳房は体質であって病気ではありません。そのため保険診療の対象ではありません。高濃度乳房で他の検査を希望される場合は、自費診療となります。費用等は受診する医療機関にお問い合わせください。

乳房によくみられるもの



乳腺症

この用語はしばしば混同されて使用されています。良性ですが、他の名前を付けられない場合にしばしば使われているようです。ホルモンの影響で、乳房痛の原因になったりします。

乳管内乳頭腫

乳汁の通り道である乳管の中にできる小さなしこりです。これ自体は良性ですが、乳がんとの区別が付きにくい場合もあり、精密検査の対象となることがあります。

石灰化

「石灰化」は一般にカルシウムが固まって作られるものです。その形や数、分布などにより、良性・悪性疑い・悪性に分類します。良性のものは悪性になる心配はありませんので、石灰化があること自体を心配する必要はありません。

のう胞(のうほう)

液体を入れている袋です。乳腺はもともと乳汁を作る機能を持っているため、出産後でなくても分泌物を作ることがあります。これ自体は良性であり、がんの心配はありません。ただし「のう胞疑い」となっている場合は、のう胞と断定できないため、精密検査の対象となります。また、のう胞の中にしこりを作るものは「のう胞内腫瘍」といい、精密検査の対象です。

線維腺腫

10～30代によくできる良性のしこりです。これ自体が悪性(がん)に変化することはありません。ただし、時々大きくなることもあり、自己触診で明らかに大きくなっている場合は、一度精密検査機関を受診することをお勧めします。「線維腺腫疑い」となっている場合は、線維腺腫と断定できないため、精密検査の対象です。